

平成28年度独立行政法人国立美術館年度計画

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

①-1 独立行政法人国立美術館（以下「国立美術館」という。）は、研究成果、利用者のニーズを踏まえ、各館の特色を生かした所蔵作品展を小企画展・テーマ展として行うものを含め開催する。企画展では、メディアアート等の先端的な展覧会やアジアに目を向けた展覧会、作家・作品の再発見・再評価、海外の美術館との連携協力により世界の美術の紹介を目指した展覧会を開催する。

映画については、保存・復元成果の活用と、国内外の同種機関や関連団体との積極的な連携を通して、映画人や時代、国やジャンル等様々な切り口による上映会・展覧会をバランスよく実施し、多様な鑑賞機会の提供を図る。

また、入館者に対するアンケート調査を行い、そのニーズや満足度を分析し、結果を展覧会事業等に反映させるとともに、各館のホームページをはじめ、インターネットを活用した展覧会事業等の広報により一層努める。

各館では以下の方針に基づき、別表1の展覧会等を開催する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

所蔵作品展では、引き続き特集展示による新たな視点の提供や、多言語による掲出解説文の充実に努め、約100年にわたる日本美術の流れを体系的に示す国内最大の展示としての使命を十全に果たす。主な特集展示として、「春らんまんの日本画まつり」、アーティストとの共同企画である「奈良美智がえらぶMOMAT コレクション（仮称）」等を開催する。

企画展では、日本画家安田靉彦に新たな光を当てる個展、詩人という領域にとどまらずに幅広い活動を続けている吉増剛造の個展、今日の世界の写真界を牽引する一人であるトーマス・ルフの個展、瑛九の初期作を書簡と関連付けて展示する小企画展、戦後日本を代表する抽象画家山田正亮の個展、樂家15代の重要作を一堂に会する展覧会（京都国立近代美術館との交換展）を開催する。

〈工芸館〉

所蔵作品展では、恒例となっている夏季のこども企画において工芸特有の素材と造形の関係を検証する。会期中は、こども用に加えておとなのためのセルフガイドも用意し、工芸の基礎的な知識を深める。冬季には前年度に続き日本の工芸の発展に重要な役割を果たしてきた茶の湯の器に焦点を絞り、コレクション活用の幅をさらに広げる取組を行う。また、時代を越えて親しまれてきた動物をテーマとした作品を展示して、身近なモチーフから工芸の魅力を紹介するとともに、新たな観覧者

の獲得にも努める。

企画展では、引き続き、民藝運動にも深く関わった重要無形文化財保持者の芹沢銈介を取り上げ、寄贈を受けた代表作を中心に、図案や原画なども加えて、芹沢の幅広い活動を紹介する。秋季には現代工芸の旬の様相を紹介する企画を開催する。

加えて、本館ギャラリー4では、デザイン特別展としてモダン・デザインを代表するマルセル・ブロイヤーの家具に焦点をあてた展覧会を開催する。

〈フィルムセンター〉

上映会では、日本映画を代表する映画人の業績を顕彰する企画「生誕100年 木下忠司の映画音楽」、「生誕100年 映画監督 加藤泰」、「ドキュメンタリー作家 羽田澄子」や、上映機会が少なく珍しい外国作品を紹介する「NFC所蔵外国映画選集（仮称）」、1980年代以降の新しい日本映画に焦点をあわせた「自選シリーズ 現代日本の映画監督5（仮称）」などを開催する。また、恒例となった「PFF」や「EUフィルムデーズ」のほか、東京国際映画祭等との共同主催による「アメリカ映画特集（仮称）」、スウェーデン映画協会との共同主催による「シネマの冒険 闇と音楽 2016」、DEFA財団等との共同主催による「創立70周年 旧東ドイツDEFA 映画回顧特集（仮称）」など、共催によって可能となるプログラムの実施にも積極的に取り組む。海外アーカイブとの共催企画では日本語字幕を作成し、他専門機関への巡回にも生かすなど、多彩な鑑賞機会の提供を図る。

展覧会では、スチル写真・ポスター・プレス資料等の所蔵コレクションを活用しつつ、デジタル映写への転換とともに変貌を遂げつつある日本の映画館文化をめぐる展覧会、創業40年となる角川映画を取り上げた展覧会を開催する。また、京都国立近代美術館との共催でドイツの映画ポスター展を実施する。さらに、展覧会と連動した効果的な上映のあり方や教育普及企画についても様々な取組を試みるとともに、所蔵コレクションのより効果的な公開を目指し、トーク等の事業を充実させる。

（京都国立近代美術館）

所蔵作品展では、企画展に連動したテーマや小企画を実施するとともに、年間5回の展示替えでコレクションを紹介する。また、キュレトリアル・スタディーズとして研究員の発表の場を設ける。

企画展では、所蔵作品を使って新たな鑑賞方法を提案する参加型の展覧会「オーダーメイド：それぞれの展覧会」を開催する。「キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより」は、東京国立近代美術館フィルムセンター（以下「フィルムセンター」という。）との共同主催により開催するポスターの展覧会で、コレクション・ギャラリーの一部を用いて開催する。「ポール・スミス展 HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH」では同氏のユニークな世界観と多彩なクリエイションの軌跡に迫る。「日本美術の熱き時代（仮称）」では、1950年～60年代の日本美術の動向を検証する。「メアリー・カサット展」では、国内では実に35年ぶりの開催となる印象派女性画家のメアリー・カサットの全体像を紹介する。「楽 歴代展

（仮称）」では、長次郎から始まり約450年続いている樂焼の系譜を検証する。また、東京国立近代美術館との交換展である「山田正亮展（仮称）」では、現代美術家の山田正亮を検証する。

（国立西洋美術館）

所蔵作品展では、松方コレクションを含む絵画及び彫刻作品の展示とあわせ、版画素描展示室において小企画展を開催する。また、2017年の日本・デンマーク国交150年を記念して常設展示室の一部で開催する「スケーエン：デンマークの芸術家村」展では、19世紀末から20世紀初頭にデンマーク最北端の村で活動した画家たちの作品を紹介する。

企画展では、前年度に引き続き「日伊国交樹立150周年記念 カラヴァッジョ展」を開催するほか、「聖なるもの、俗なるもの メッケネムとドイツ初期銅版画」では、イスラエル・ファン・メッケネムの作品を展覧しつつ、ドイツに誕生したエングレーヴィングの初期の展開における諸様相を掘り下げる。「クラーナハ展—500年後の誘惑」では、クラーナハの芸術の全貌を、当時のドイツの思想や文化、社会や政治の状況などとあわせて読み解き、さらには近現代におけるその影響にも迫る。「シャセリオー展 ロマン主義から象徴主義へ（仮称）」では、ルーヴル美術館の所蔵作品を中心に、シャセリオーの初期作品から晩年までの作品と、彼の影響を受けた画家たちの作品を比較展示し、ロマン主義から象徴主義への展開のなかで、その芸術の意義を再考する。

（国立国際美術館）

所蔵作品展では、「特別展 始皇帝と大兵馬俑」に合わせ、前年度購入した映像作品フィオナ・タン《インヴェントリー》を中心に、歴史や時間をテーマとした展示を行う。これは、広く一般の美術愛好家に向けて、現代美術への理解を促す新しい試みである。

企画展では、日本の現代美術を代表する一人である森村泰昌の大規模な個展「森村泰昌：自画像の美術史—「私」と「わたし」が会うとき」を開催するほか、戦後関西の美術運動として独自の展開を遂げてきたTHE PLAYを検証する展覧会

「THE PLAY since 1967 まだ見ぬ流れの彼方へ」、日本のデザイン界をリードしてきた田中一光の仕事を展覧する「田中一光ポスター展」、第二次大戦後の西欧において抽象的な表現主義を追求してきたアレシンスキーの回顧展「アレシンスキー展（仮称）」を開催する。また、共催展では、「特別展 始皇帝と大兵馬俑」、「日伊国交樹立150周年特別展 アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち」及び「クラーナハ展—500年後の誘惑」を開催し、幅広い層の関心に応じる。

（国立新美術館）

前年度に開幕した自主企画展「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」では、世界を牽引する稀代のデザイナーの足跡を大規模な展示によって一望する。また、同

じく前年度から継続する展覧会「はじまり、美の饗宴展 すばらしき大原美術館コレクション」のほか、新たに5本の展覧会を開催する。「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵ルノワール展」では、印象派の巨匠であると同時に、印象派を超えて独自の裸婦像を確立したフランスの巨匠、ルノワールの創造の軌跡を追う。

「日伊国交樹立 150 周年特別展 アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち」では、ルネサンス期のヴェネツィアを舞台に花開いた色彩豊かで壮大な絵画を、当館ののびやかな空間を生かして展示する。「ダリ展」では、シュルレアリスムを代表する画家として日本でも人気の高いスペイン人画家、ダリの特異な世界を紹介する。また、「草間彌生展（仮称）」は、日本が世界に誇る現代作家である草間の初期から最新作までを展示する大規模な個展である。「ミュシャ展」は、チェコを代表する画家であるアルフォンス・ミュシャの大作、連作《スラヴ叙事詩》を一堂に展示する画期的な企画である。6×8メートルもの壮大なスケールの歴史画を、東欧の歴史を視野に入れつつ検証する。

①-2 国立美術館における企画機能の強化を図るため、引き続き、①交換展・共同企画展の充実と、②所蔵作品の相互貸出の推進に努めるとともに、③5館共同企画展の成果を踏まえ、今後の各館連携について検討する。

①-3 国立美術館は、展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の入館者等の状況等を踏まえて入館者数の目標を設定し、その達成に努める。

② 国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地方における鑑賞機会の充実及び美術の普及を図るため、全国の公立美術館等と連携して、地方巡回展を実施する。また、全国の公立文化施設等において優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

ア 国立美術館巡回展

「京都国立近代美術館名品展（仮称）」

（担当館：京都国立近代美術館）

（ア）期間：平成28年9月3日（土）～10月10日（月・祝）（34日間）

会場：山梨県立美術館（山梨県）

（イ）期間：平成28年10月22日（土）～11月27日（日）（33日間）

会場：北海道立帯広美術館（北海道）

イ 各館の巡回展

「東京国立近代美術館工芸館名品展 日本工芸の100年—ペルシアの記憶から現代まで」

（ア）期間：平成28年4月29日（金）～6月19日（日）（46日間）

会場：岡山市立オリエント美術館（岡山県）

（イ）期間：平成28年6月29日（水）～8月25日（木）（51日間）

会場：島根県立美術館（島根県）

ウ 優秀映画鑑賞推進事業

広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供し、あわせて国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁との共催事業として、教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の巡回上映を実施する。

プログラム：25 プログラム 100 作品（1 プログラム 4 作品）

日本映画史を彩る名匠たちの代表作やスターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画等、それぞれのジャンルを代表する名作、時代を画した話題作等で構成し、同時に、地域の特色を持った構成により、会場が参加しやすいよう工夫をする。

期間：平成28年 7 月 4 日（月）～平成29年 3 月 5 日（日）

会場：全国194会場（予定）

エ 巡回上映等

（ア）蘇ったフィルムたち～東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集

期間：平成 28 年 6 月～11 月（予定）

会場：全国 3 会場（予定）

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター、各実施会場

（イ）「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films」（年 4 回程度）

会場・共催：京都国立近代美術館

（ウ）「第13回中之島映像劇場—東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による」

期間：平成29年 3 月

会場・共催：国立国際美術館

（エ）「キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより」

期間：平成28年 6 月 1 日（水）～7 月 24 日（日）

会場・共催：京都国立近代美術館

（２）美術創造活動の活性化の推進

① 国際的に注目されるメディアアート、マンガ、アニメ、建築、デザイン、ファッション等の様々な芸術表現を紹介し、新たな視点を提起する展覧会事業等を実施する。

ア 東京国立近代美術館では「トーマス・ルフ展（仮称）」において、最新のデジタル技術を従来の写真表現に融合させるこの作家の先進的な取組を紹介する〔再掲〕。所蔵作品展「MOMAT コレクション」においては、1970 年代以降の美術動向中重要な位置を占める映像作品の収集・展示に引き続き力を入れるとともに、フィルムセンターとも協働し、各時代の世相を示す映像資料を展示内で活用する。

イ フィルムセンターでは、2017年に日本におけるアニメーション映画製作が100

年を迎える歴史的意義を踏まえ、映画製作会社や国内外の所蔵機関等の協力を得て、日本アニメーション映画の所蔵の充実を図るとともに、主催事業や貸与等を通して、その成果を紹介する。また、「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」（以下「BDC プロジェクト」という。）において、ファイル化した所蔵日本アニメーション映画について、従来のアクセス対応に加え、ネット公開などの方法についても検討を行う。またBDCプロジェクトと連携して、所蔵するアニメーション映画関連資料のデジタル技術を用いた公開を行う。

ウ 京都国立近代美術館では、「ポール・スミス展 HELLO,MY NAME IS PAUL SMITH」を開催し、世界的に注目されている同氏のデザインやファッションを紹介する。本展を通して国内外にデザインやファッションの新しい動向を提示する〔再掲〕。

エ 国立国際美術館では、「森村泰昌：自画像の美術史―「私」と「わたし」が会うとき」において、映像表現を含む展示を実施する〔再掲〕。

オ 国立新美術館では、様々な芸術表現を紹介する展覧会事業等について以下のとおり実施する。

(ア) 「MIYAKE ISSEY展：三宅一生の仕事」では、ファッションの分野において世界を牽引してきた同氏の活動の軌跡を紹介し、展示にも趣向を凝らす〔再掲〕。

(イ) 「ダリ展」において、ダリの制作した映像作品やアニメーション作品を紹介する〔再掲〕。

(ウ) 世界的な現代作家である草間彌生の大回顧展「草間彌生展（仮称）」において、映像作品をはじめ多岐に渡るジャンルの作品を通じて、その特異な芸術世界を紹介する〔再掲〕。

(エ) 世界的に評価が高いが、これまで日本の美術館が紹介を怠ってきた分野に焦点をあてた画期的な展覧会として前年度に開催した「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」展の海外巡回を推進する。

(オ) アニメーション表現による映像作品を紹介する機会として「TOKYO ANIMA!2016」を共催するとともに、「インターカレッジアニメーションフェスティバル (ICAF) 2016」に特別協力する。また、マンガ、アニメーション、ゲームに関連した事業の企画や協力を行う。

(カ) 講堂や地下1階等に設置された館内映像設備を活用し、アニメーション作品をはじめとするメディアアートを上映する。

② 国立新美術館は、美術団体等に公募展会場の提供等を行う。

ア 平成28年度に公募展等を開催する美術団体等に会場を提供する。

イ 平成30年度に施設を使用する美術団体等を決定する。

ウ 美術団体等が快適に施設を使用できる環境の充実を図るとともに、美術団体等と連携して教育普及事業を行う。

（３）美術に関する情報の拠点としての機能向上

美術に関する情報の拠点としての機能を向上させ、国民の美術に関する理解の促進に寄与するとともに、長期的には、日本・アジアにおける西洋美術の、また世界における日本近・現代美術の研究の中心となることを目指し、平成26年度に設置した「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」において引き続き検討を進める。

- ① 法人のホームページ及び各館のホームページについては、内容の充実を図り、国立美術館の活動について積極的な情報発信に努める。

所蔵作品情報については、前年度に実施したインダストリアル・デザイン、グラフィック・デザイン等の工芸諸作品の著作権者の調査等に基づき、許諾を得たものについて所蔵作品総合目録検索システムに掲載し、収録画像の増加に努めるとともに、新収蔵作品等について著作権者の調査を継続する。これらにあわせて、所蔵作品総合目録検索システム、東京国立近代美術館・国立新美術館図書検索システム、国立新美術館アートコモンズ及び国立西洋美術館作品検索等の連携情報システム

（国立美術館版「想－IMAGINE」）を継続して公開する。また、国立美術館の情報資源と国立国会図書館サーチ（NDL Search）及び国立情報学研究所による Webcat Plus、文化庁文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を、国立情報学研究所の「想－IMAGINE」において連携するための調査研究を継続して実施する。

このほか、国立美術館 5 館の事業成果を取りまとめた『国立美術館年報』を発行する。

（東京国立近代美術館）

ア 研究紀要21号（平成28年度刊行予定）の全文を、平成29年 3 月をめどにホームページで公開する。

イ 前年度にリニューアルされたホームページを運用する中でさらなる機能向上に向けての知見の蓄積を図る。

ウ フィルムセンターでは『NFC ニュースレター』の内容の充実と、ホームページ、メールマガジン、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下「SNS」という。）等を活用した積極的な情報発信にさらに努める。

エ フィルムセンターでは、BDC プロジェクトと連動した所蔵映画フィルム及び関連資料のデジタル化の推進に加え、BDC プロジェクトを中心に、所蔵のフィルムや映画資料のデジタル化を進めるとともに、国立情報学研究所等と連携協力してweb公開やメタデータに関する調査研究も行う。さらにデジタルデータの保存システムを試作して管理・運用方法の調査研究を行う。

（京都国立近代美術館）

ア 展覧会情報、講演会、教育普及などのイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらに、SNSを活用し、積極的に情報を発信する。

イ コレクション・ギャラリーの小企画、テーマ展示に関する小解説をホームページに掲載し、情報発信の充実に努める。

ウ 過去の展覧会情報をアーカイブ化して、引き続きホームページ上で公開する。

(国立西洋美術館)

ア 歴史情報（来歴等）を含む所蔵作品情報の収集・整理に努め、専門家向けにも利用可能なレベルの情報をインターネットを通じて日英2ヶ国語で発信し、国内外の研究促進に貢献する。

イ 展覧会活動その他の活動状況を日英2ヶ国語のホームページやSNSを通じて積極的に発信する。

ウ 前年度に設置した「国立西洋美術館出版物リポジトリ」を通じて、『国立西洋美術館研究紀要』及び『国立西洋美術館報』最新号を公開し、美術に関する研究成果等についてオープンアクセス化を推進する。

エ 所蔵作品に関する情報資産の安全な運用のため、所蔵作品データのバックアップ・コピーの作成及び遠隔地での保管を実施する。

(国立国際美術館)

ア 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。

イ 情報コーナーのパソコンによる所蔵作品閲覧の充実に努める。

ウ ホームページについて、現在の展覧会情報だけでなく、過去の展覧会情報についても充実を図る。

(国立新美術館)

ア 適時、メールマガジンを配信するとともに、ホームページ上などで登録者の募集を引き続き行う。インターネット上のSNS等を活用し、館の活動を積極的に発信し、ホームページへの利用者の誘導を行う。前年度に実施したホームページ・リニューアルを起点として、スマートフォン等でも使いやすいホームページを引き続き整備し、利用者の利便性の向上を目指す。

イ 所蔵する図書資料や写真資料、戦後日本の展覧会データのホームページ上の横断検索を引き続き検討し、情報資源の積極的な活用を図る。

ウ 脆弱な所蔵資料を対象としたデジタル化を引き続き実施する。さらに、これまで閲覧に供することが難しかった脆弱な所蔵資料をデジタル化資料として提供する閲覧サービスを試験的に運用し、脆弱な所蔵資料の保存と利用者の閲覧の利便性向上の両立を図る。

② 美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コーナー、アトライブラリー、資料閲覧室等において、情報サービスの提供を実施する。

(東京国立近代美術館)

ア 近・現代美術関連資料を本館アトライブラリー、近・現代工芸関連資料を工芸

館図書閲覧室、映画関連の図書資料をフィルムセンター図書室において収集し、公開する活動を継続的に進める。

イ 『東京国立近代美術館60年史』刊行を踏まえ、館史資料の収集を継続しながらミュージアム・アーカイブの構築に関わる基礎的な調査研究を行う。あわせて「本館・工芸館企画展出品作家索引」を維持し、データベース化してホームページに公開しその活用を促す。

ウ 前年度に引き続いて、他法人等と実行委員会を組織し、文化庁の補助事業として「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業2016」（略称：JALプロジェクト）を実施する。

（京都国立近代美術館）

新たな図書管理システムにより、近・現代美術関連資料の公開に向けた取組に着手する。

（国立西洋美術館）

西洋美術に関する情報及び資料を積極的に収集し、調査研究活動の基盤とする。収集資料は研究資料センターにおいて外部利用者にも閲覧可能とする。美術に関する情報拠点としての機能を強化するとともに国際的な美術情報流通の向上に寄与するため、「アート・ディスカバリー・グループ目録」（Art Discovery Group Catalogue）への参加等、国内外の美術図書館と連携する。また、松方コレクション等の研究資源公開の課題に継続して取り組む。

（国立国際美術館）

国立国際美術館では、資料室において所蔵する図書及び美術資料を外部利用者に公開する活動を将来的に行うため、データベース整備を行う。

（国立新美術館）

ア 引き続き国内美術展カタログの海外への寄贈事業（Japan Art Catalogプロジェクト）の充実を図るとともに、国内有数の所蔵数を誇る展覧会カタログのコレクションの更なる充実に努め、日本の現代美術に関する資料アーカイブの構築と公開を進める。また、平成25年度に別館1階に開室した「アトライブラリー別館閲覧室」の一層の拡充を行い、利用者サービスの向上に取り組む。

イ 「アートコモンズ」の収録展覧会情報のより一層の充実を図り、展覧会情報と同館が有する美術情報との連携を進める。

- ③ 国立美術館において蓄積された作品、図書、展覧会等に関わる情報資源の安全な活用を図るためにデータの二重化を含めバックアップ体制を強化する。そのためのバックアップ用VPN（バーチャル・プライベート・ネットワーク）回線を維持する。

（４）教育普及活動の充実

- ① 引き続き、年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開するとともに、美術教育に携わる教員等に対する美術館を活用した鑑賞教育に関する研修や、学校で活用できる教材「アートカード」の貸出と普及に努め、美術の一層の普及を図る。また、学校や社会教育施設に対して、これら事業の広報に努める。

（東京国立近代美術館）

〈本館〉

所蔵作品展、企画展ともに、幅広い層にあわせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。特に小・中学生、高校生の発達段階に応じた鑑賞教育は、生涯にわたって美術と美術館に親しむための基礎的な学びの機会として位置付け、学校と連携しつつ実施し、調査・研究を進める。

ア 企画展に関する講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施

イ 所蔵作品展に関するアーティスト・トーク（約１回）、キュレーター・トーク（約１２回）、解説ボランティア（本館ガイドスタッフ）による所蔵品ガイド（開館時毎日、約２９０回）やハイライトツアー（１１回）の実施

ウ 企画展に関する教員のためのレクチャー付き内鑑賞会（約４回）、小・中学生のためのセルフガイドの会場配布（通年）

エ 小・中・高等学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのギャラリートーク、教員研修の実施

オ 教員研究団体（東京都図画工作研究会・東京都中学美術研究会）との連携による研修への協力

カ 夏季の所蔵作品展に関する小学校中学年までを対象とした鑑賞教室「こども美術館」と小学校高学年から中学生までを対象とした「トークラリー」の実施及び未就学児とその親を対象とした「おやこでトーク」の実施（通年）

〈工芸館〉

所蔵作品展、企画展ごとにギャラリートークや工芸館ガイドスタッフによる鑑賞プログラム「タッチ&トーク」の他、観覧者の層に応じた様々な教育プログラムを実施する。

ア 企画展及び所蔵作品展に関する講演会やシンポジウム、アーティスト・トーク、ギャラリートークの実施

イ 企画展及び所蔵作品展に関する解説ボランティア（工芸館ガイドスタッフ）による鑑賞プログラム「タッチ&トーク」（約８０回）の実施

ウ 小・中学校教職員等を対象とした事前研究会の実施、研修等への協力

エ 各種教育機関からの要請に応じて、児童・生徒に対するギャラリートークや「タッチ&トーク」の実施

オ 夏季の所蔵作品展に関する児童生徒及び一般を対象とした２種のセルフガイドの作成・配布、未就学児から小学校低学年までを対象とした鑑賞教室「こどもタッチ&トーク」、子ども連れの来館者を対象とした「家族でタッチ&トーク」、

親子のための言語活動と作品理解の共有を目的としたワークショップの実施
カ 作家との協力により小学校高学年から中学生を対象としたワークショップの実施

〈フィルムセンター〉

- ア 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施
- イ フィルムセンターが新たに復元した映画の上映と講演会の実施
- ウ 研究員の解説や弁士の公演等も交えながら映画の多様性に触れる機会を提供する「こども映画館」の実施（夏休み期間、4日間程度）
- エ 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づく上映会や相模原市内の小・中学生を対象とした上映会の実施

（京都国立近代美術館）

幅広い層の人々への美術鑑賞に対する関心を高めることを重点目標に置き、展覧会に関連した講演会や解説を開催する。また、美術館を活用した各種団体の自発的な学習・研究等を積極的に支援するとともに、美術鑑賞教育の核としての現場指導者の質の向上を目指す。

- ア 小・中・高等学校及び大学の授業や課外活動との積極的な連携
- イ 教員の美術館利用プログラムに対する支援
- ウ 学校、各種団体からの要請による解説の実施
- エ 企画展に関連した講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施
- オ 学校等からの要請による美術館利用についての教員研修会等の受入れの促進
- カ 京都市教育委員会等との共催による「平成28年度図画工作指導講座『京都国立近代美術館との連携による鑑賞教育の充実に向けて』」の開催

（国立西洋美術館）

より多くの人々に美術と美術館に親しんでもらえるように、所蔵作品展と企画展の双方に関連して多様なプログラムを実施する。また、学校、家族、障がいのある人といった特定の対象に向けたプログラムを提供するなど、社会的包摂も視野に入れて活動するよう努める。

- ア 「スクール・ギャラリートーク」（小・中・高等学校の団体対象）の実施（予約制）
- イ 「美術トーク」（日曜日及び第1、第3土曜日）「建築ツアー」（第2、第4日曜日と水曜日）の実施
- ウ ファミリー・プログラム「どようびじゅつ」（20回程度）の実施
- エ ファン・ウィズ・コレクション（本館建築をテーマにする）の実施
- オ クリスマス・プログラム（トーク、クリスマスキャロル・コンサート等）の実施
- カ 企画展に関連した講演会（10回程度）とスライドトーク（10回程度）の実施
- キ 企画展に関連した「先生のための鑑賞プログラム（解説&無料観覧）」（3回

程度)の実施

ク 障がいのある人を対象とする特別プログラムの実施(2回)

(国立国際美術館)

幅広い層の人々が美術館に親しみ、美術鑑賞の機会を身近に感じられるよう、企画展ごとに関連講演会、ギャラリートーク等を開催するとともに、低年齢層も参加できる各種プログラムを実施する。また、各校種・研究団体と連携し、小・中・高等学校・特別支援学校へのより一層の鑑賞教育の充実を促進する。

ア 企画展に関連した講演会・対談・アーティスト・トーク(7回程度)、ギャラリートーク(3回程度)等の実施

イ 小・中学生向け作品鑑賞ツアー「こどもびじゅつあー」(12回程度)の実施

ウ ファミリー・プログラム「なつやすみびじゅつあー」、「びじゅつあーすぺしゃる」(8回程度)の実施

エ 子どもから大人までを対象にした現代美術作家等によるワークショップ(4回程度)の実施

オ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」・「アクティヴィティ・シート」の発行(通年)

カ 小・中・高等学校・特別支援学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのオリエンテーション及びギャラリートークの実施

キ 「鑑賞学習を通じた学びを考える会」(小・中・高等学校・特別支援学校の教職員及び鑑賞教育の従事者を対象)(7回程度)の実施

ク 美術館活用及び鑑賞教育に関する教員研修の実施

ケ 大阪市教育センター、大阪府教育センター等との連携による研修会の実施

(国立新美術館)

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やアーティスト・トークを実施するほか、より多くの人々に美術に親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広い層を対象に実施する。

ア 展覧会にあわせた講演会及びアーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施(10回程度)

イ 子どもから大人まで幅広い層を対象にした作家等によるワークショップ等の実施(6回程度)

ウ 美術団体等との連携による講演会、鑑賞会及びギャラリートーク等の実施

エ 鑑賞ガイドの作成及び配布(2回程度)

オ 児童、生徒、学生を対象とした鑑賞ガイダンスの実施

カ 美術や美術館をテーマとした館長とゲストによるトークイベントの実施

キ ロビーコンサートの実施(3回程度)

② ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

ア 本館ガイドスタッフ（ボランティア）に5期メンバー約10名を加え、計約45名により、所蔵作品展の所蔵作品ガイド（開館時毎日、290回程度）、「ハイライト・ツアー」（11回）及び夏季の児童向けの鑑賞プログラム「こども美術館」・「トークラリー」を実施する。

イ 本館ガイドスタッフによる小・中学生の受入れ（スクール・プログラム）等、鑑賞教育の充実を図る。

ウ 外部講師又は研究員によるフォローアップ研修（年2回程度）を開催して、ガイドスタッフの意欲とファシリテーション・スキルの向上を図る。

エ 友の会、賛助会については、会員証提示による優待割引を実施するとともに、ミュージアムショップなどでの割引を引き続き実施する。また、有効期間終了時には、各会員に通知をし、継続を促す。

〈工芸館〉

ア 工芸館ガイドスタッフ（ボランティア）約35名により、一般観覧者向けの鑑賞プログラム「タッチ&トーク」（会期中の水・土曜日、90回程度）及び夏季の児童向けの鑑賞教室「こどもタッチ&トーク」を実施する。

イ 工芸館ガイドスタッフにより、外国人及び国際的な文化交流に関心を持つ日本人を対象とした英語による鑑賞教室「英語タッチ&トーク」を実施する。

ウ 研究員等によるフォローアップ研修を開催して、ガイドスタッフの意欲とトーク技術の向上を図る。

エ 友の会、賛助会については、会員証提示による優待割引を実施するとともに、ミュージアムショップなどでの割引を引き続き実施する。また、有効期間終了時には、各会員に通知をし、継続を促す。

(京都国立近代美術館)

ア 京都市との連携により、京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」修了者の中からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査等に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力する。

イ 友の会については、各展覧会の解説会を実施するとともに、京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と連携して会員証提示による優待割引を引き続き実施する。

(国立西洋美術館)

ア ボランティア・スタッフ42名により、小・中・高等学校生の団体を対象とした所蔵作品展でのスクール・ギャラリートーク、ファミリープログラム、週末の一般向け「美術トーク」及び「建築ツアー」を実施する。

イ ファミリープログラム「どうぶじゅつ」の共同企画及びボランティア企画によるプログラム（２回程度）の実施を通して、活動への意欲と積極性を促す。

ウ ボランティアの育成を目的として、プログラム遂行のためのスキルアップ研修及び広く美術に関する知識を学ぶための研修（２回程度）を実施する。

（国立国際美術館）

ア 学生ボランティアを受け入れ、美術資料の整理、ワークショップ等の補助業務を通じて、美術館活動に参画する機会と実務経験を積む機会を提供する。

イ 友の会については、会員参加型のイベントの開催等、活動内容等の充実を図るとともに、法人会員の加入に努める。

（国立新美術館）

ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ボランティアを受け入れ、美術館における業務の補助を通じた実務経験の機会を提供する。

イ 教育普及事業等への企業協賛獲得に積極的に取り組む。

ウ 近隣関係施設と連携・協力し、「六本木アート・トライアングル」を構成して、展覧会スケジュールが入ったマップの配布や、美術の普及につながる活動を行う。

（５）調査研究の実施と成果の反映・発信

国立美術館における美術作品の収集・展示・保管、教育普及、情報の収集・提供その他の美術館活動の推進を図るため、別表２のとおり、各館において調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活動の充実に生かす。実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携を図る。また、募集情報等の共有を図り、科学研究費補助金等の研究助成金の申請や外部資金の獲得を促進する。

さらに、館外の学術雑誌、学会等に掲載・発表するとともに、館の広報誌、研究紀要、図録を発行するなど、調査研究成果の多様な発信に努める。

（東京国立近代美術館）

〈本館〉

ア 研究紀要、展覧会や企画上映に伴う図録、『現代の眼』等の刊行物を発行する。

イ 小・中学生向け鑑賞ツール「セルフガイド」、未就学児向け鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」を発行する。

〈工芸館〉

ア 展覧会に伴う図録を発行する。

イ 夏季の所蔵作品展「こども＋おとな工芸館」において、児童生徒並びに一般来館者を対象とした２種類の解説パンフレット「セルフガイド」を発行する。

〈フィルムセンター〉

ア 『NFC ニュースレター』等を発行する。

(京都国立近代美術館)

- ア 展覧会に伴う図録、美術館ニュース『視る』を発行する。
- イ 京都国立近代美術館研究誌『CROSS SECTIONS』第8号を発行する。
- ウ コレクション・ギャラリーでは展示替え毎に、展示の概説をホームページ上に公開する。

(国立西洋美術館)

- ア 研究紀要、展覧会に伴う図録、『国立西洋美術館ニュースZEPHYROS』を発行する。
- イ 展覧会ごとに小・中学生向け解説パンフレット「ジュニア・パスポート」を発行する。

(国立国際美術館)

- ア 展覧会に伴う図録及び『国立国際美術館ニュース』を発行する。
- イ 「ジュニア・セルフガイド」を発行する。
- ウ 小・中学生向け鑑賞補助教材を発行する。

(国立新美術館)

- ア 展覧会に伴う図録を発行する。
- イ 鑑賞ガイドを発行する。
- ウ 研究紀要を発行する。

(6) 快適な観覧環境等の提供

- ① 各館において、引き続き動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するための工夫を行う。
また、より良い鑑賞環境を提供するための様々な方途について検討する。
なお、引き続きアンケート調査等の結果を踏まえ、快適な観覧環境等の提供に努める。

(国立美術館全体)

一般向けに5館の紹介パンフレット（日本語、英語）を制作し、国立美術館自体の認知度の向上及び集客に努める。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

- ア 前年度に立ち上げたブランディング戦略プロジェクトチームにおいて、中長期的な広報戦略のための基盤固めを行う。
- イ ガイドマップ他を活用し、館のイメージ刷新や東京駅方面からの来館者の誘導に努める。
- ウ 展覧会カレンダーを配布する。

- エ 館紹介パンフレット（日本語、英語）を配布する。また、パンフレットをPDF化し、ホームページ上に掲載し、さらなる周知に努める。
- オ 会場で配布する出品リスト等をより見やすくするために文字を大きくするなど必要な改善を行う。
- カ 所蔵作品展において、引き続きキャプション・解説パネル等文字要素の視認性を重視し、また多言語化を図る。
- キ 所蔵作品展において、日本語版・英語版音声ガイドの貸出しを行う。
- ク 企画展において可能な限り「フロアガイド」を配布する。
- ケ 所蔵作品展において、小・中学生向けのセルフガイドを配布する。
- コ 企画展において、可能な限り多言語対応（英語、中国語、韓国語）を図る。
- サ 国外の主要メディア（主に観光レジャー系）に館を紹介するプレスリリースを配信し、外国人の来館促進を図る。
- シ エントランスホールを含め、館内サイン環境や快適さを向上させるための具体策を策定、一部実施する。

〈工芸館〉

- ア フロアガイド、作家名・作品名の読み方、素材・技法等を記載した出品リストを作成・配布するとともに、作家や作品の解説パネルやキャプションを作成・掲示するなど、鑑賞のための情報提供を促進する。
- イ 所蔵作品展開催時に設置している各作品の注目ポイントを写真と文章で明示した鑑賞カードの充実を図り、来館者が興味深く鑑賞できるよう情報提供に努める。
- ウ 夏季の所蔵作品展「こども＋おとな工芸館」において、児童生徒並びに一般の来館者を対象とする2種類のセルフガイドを配布する。

〈フィルムセンター〉

- 展示会の開催に際し、展示作品の出品目録を配布する。
 - 「写真展 映画館 映写技師／写真家 中馬聰の仕事」（1回）
 - 「角川映画の40年（仮称）」（1回）
 - 「戦後ドイツの映画ポスター（仮称）」（1回）
- 計3回配布

（京都国立近代美術館）

- ア 館概要（日本語、英語、独語、仏語、西語、伊語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会案内（日本語、英語）を配布する。
- ウ 小・中学生に対してガイドブックを配布する。
- エ 京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを引き続き実施する。
- オ デジタルサイネージ（日本語、英語、中国語、韓国語）を活用し館内案内の多

言語化を図る。

(国立西洋美術館)

- ア 国立西洋美術館ブリーフガイドを配布する。
- イ 企画展において「作品リスト」（日本語、英語）及び小・中学生向け解説「ジュニア・パスポート」を配布する。
- ウ これまで導入してきた「Touch the Museum」の拡張を視野に入れた検証を継続して行う。

(国立国際美術館)

- ア 館概要リーフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会において、「フロアガイド」を配布する。
- ウ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」、「アクティヴィティ・シート」を配布する。

(国立新美術館)

- ア 館フロアガイド（日本語、英語、独語、仏語、西語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会カレンダー（日本語、英語）を作成・配布する。
- ウ 展覧会において「作品リスト」（日本語、英語）を作成・配布する。
- エ 展覧会において鑑賞ガイドを作成・配布する。
- オ 文字を大きくし、見やすくした「大きな文字の利用案内」を配布する。
- カ 美術館の活動を紹介する「国立新美術館ニュース」を作成・配布する。

- ② 入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るため、次のとおり実施する。

(国立美術館全体)

- ア 若年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及び 18 歳未満の展覧会観覧料無料化の普及広報に努める。また、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の利用者増加を図るため、学生向けウェブサイトの普及広報等に努めるなど、加入校増加を目指す。
- イ 東京国立近代美術館本館・工芸館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館では、引き続き 65 歳以上の来館者について所蔵作品展の無料化を実施する。
- ウ 展覧会の混雑状況を考慮し、開館日・時間等について柔軟な対応を行う。
- エ 来館者のサービスの向上を図るため、現状の夜間開館についての回数や時間が適正であるかの検討を行う。
- オ 「国際博物館の日」にあたっては、各館以下のような記念事業を実施する。
(ア) 東京国立近代美術館本館では 5 月 15 日（日）を、京都国立近代美術館及び

国立西洋美術館では5月18日（水）を、国立国際美術館では5月14日（土）を所蔵作品展の無料観覧日とする。

（イ）東京国立近代美術館工芸館（以下「工芸館」という。）では、5月1日（日）を企画展の無料観覧日とする。

（ウ）フィルムセンターでは、5月18日（水）を展覧会の無料観覧日とする。

（エ）国立新美術館では、展覧会の実施形態に応じ、企画展及び公募展観覧料の無料化や割引観覧を実施する。

カ 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館は、東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「ウェルカムカード」に参加し、外国人旅行者に対して所蔵作品展及びフィルムセンターの展覧会の割引観覧を実施する。

キ 東京国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立新美術館は、共通入館券事業「ぐるっとパス 2016」に参加し、観覧料の低廉化を図る。

ク 京都国立近代美術館、国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西2016」及び「ミュージアム3DAYSフリーパス・関西」に参加し、観覧料の低廉化を図る。

ケ 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館は、東京都が実施する青少年育成事業「家族ふれあいの日」に参加し、所蔵作品展及びフィルムセンターの展覧会の観覧料の優待を実施する。

（東京国立近代美術館）

ア 国民に広く美術作品等に親しんでもらうため、所蔵作品展及びフィルムセンターの展覧会を廉価で観覧できるパスポート観覧券の販売促進のための広報等に努める。

イ 企画展を含め、幅広く展覧会に親しんでもらうため、国立美術館各館の所蔵作品展及びフィルムセンターの展覧会と東京国立近代美術館本館・工芸館の企画展を観覧できる友の会の広報等に努める。

〈本館・工芸館〉

ア 年始は1月2日（月）から開館する。

イ 休館日のうち、4月4日（月）、5月2日（月）、7月18日（月）、9月19日（月）、10月10日（月）、平成29年1月2日（月）、1月9日（月）、3月20日（月）、3月27日（月）を開館する。

ウ 本館では、金曜日の開館時間を午後8時まで延長する。

エ 9月3日（土）から、本館の所蔵作品展では、土曜日の開館時間を午後8時まで延長する。

オ 東京メトロ、JAF、日本私立学校振興・共済事業団、学士会館等と提携し、会員証等の提示による優待割引を実施、当該広報誌による展覧会広報とともに観覧料の低廉化を行う。

カ 東京シティアイと連携、協力し、外国人観光客及び東京への観光者に美術館の基本情報及び展覧会情報を提供する。

キ クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売を行う。

〈フィルムセンター〉

ア 大ホールと小ホールの上映時間の重複を極力避けた柔軟なタイムテーブルの編成を行い来館者の鑑賞機会の増加に努める。

イ 上映会の鑑賞者に対し、当日の展覧会観覧料の割引を行う。

ウ 展覧会において、電子マネー（Suica 及び PASMO）による観覧券の窓口販売を行う。

（京都国立近代美術館）

ア 休館日のうち5月2日（月）を開館する。

イ 4月2日（土）から9月11日（日）までの企画展開催中の金曜日の開館時間を3時間延長し、午後8時までとし、9月16日（金）から、所蔵作品展では、金曜日の開館時間を午後8時まで延長する。

ウ 9月3日（土）から、所蔵作品展では、土曜日の開館時間を午後8時まで延長する。

エ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による優待割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

オ 京都国立博物館、京都文化博物館、京都市美術館との相互割引観覧の実現に努める。

（国立西洋美術館）

ア クレジットカード及び電子マネー（Suica及びPASMO等）による観覧券の窓口販売を行う。

イ 休館日のうち、5月2日（月）、8月15日（月）、平成29年3月27日（月）を開館する。

ウ 年始は1月2日（月）から開館する。

エ 金曜日の開館時間を午後8時まで延長する。

オ 9月3日（土）から、所蔵作品展では、土曜日の開館時間を午後8時まで延長する。

カ 春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの開館時間を30分延長し、午後5時30分までとする。

キ 「国際博物館の日」に上野地区の諸機関と連携してイベントを行う。

ク 上野地区文化施設共通入場券（所蔵作品展・期間限定）を作成する。上野地区内の文化施設の相互連携により、商業施設も含めた観光客の誘致と回遊性の向上を図り、来館者サービスの充実と来館者の増員を目指す。

(国立国際美術館)

- ア 金曜日の開館時間を午後7時まで延長する。また、9月2日(金)から、所蔵作品展及び「THE PLAY since 1967 まだ見ぬ流れの彼方へ」展等において、金曜日・土曜日の開館時間を午後8時まで延長する。
- イ 休館日のうち、5月2日(月)、7月19日(火)、9月20日(火)を開館する。
- ウ 「大阪周遊パス2016」、大阪市交通局「エンジョイエコカード」等に参加し、観覧料の低廉化を図る。
- エ 近隣のホテル等と提携し、ホテル等利用者または展覧会入場者に対して相互に利用割引を行い、展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。
- オ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

(国立新美術館)

- ア 休館日のうち、5月6日(金)、8月16日(火)を開館する。
 - イ 「六本木アート・トライアングル」を構成する近隣の美術館と観覧料の相互割引を行う。
 - ウ 金曜日の開館時間を午後8時まで延長する。
 - エ 「未来を担う美術家たち 19th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果」では、土曜日の開館時間を午後8時まで延長する。
 - オ 「六本木アートナイト」(平成28年10月21日(金)～23日(日))の開催に伴い、10月21日(金)及び22日(土)の「ダリ展」の開館時間を午後10時まで延長する。
 - カ 美術団体等と協議の上、企画展及び公募展の観覧料の相互割引の実施を推進する。
 - キ 自主企画展における公募展との相互割引に関して、65歳以上の観覧者については、通常の割引後観覧料に代えて、大学生団体料金を試行的に適用し、高齢者の観覧料の低廉化を図る。
 - ク 同時期に開催する企画展の相互割引を実施する。
 - ケ 共催者と協議の上、共催展の高校生無料観覧日を設定する。
 - コ クレジットカード及び電子マネー(Suica及びPASMO等)による観覧券の窓口販売を行う。
 - サ 小学生以下の子どもを対象とした託児サービスを通年で実施する。
 - シ 「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展」において、毎週金曜日の夜間開館に加え、会場内の混雑緩和を図るため、会期中の土曜日である8月6日、13日、20日に夜間開館を実施し、開館時間を午後8時まで延長する。
- ③ 利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。
- ア 東京国立近代美術館本館では、展覧会にあわせ、レストランと連携、協力しコラボレーションメニューの開発、席の拡充や営業時間の延長など来館者サービス

の向上を図る。

イ 京都国立近代美術館では、カフェと連携、協力し、展覧会にあわせたテーマランチやテーマデザートを提供を行う。また、ミュージアムショップでは、オリジナルグッズの開発、展覧会にあわせた関連書籍やグッズを充実させる。

ウ 国立西洋美術館では、レストランにおいて展覧会にちなんだメニューの提供を推進するとともに、『国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS』やホームページで広報する。また、更なる来館者サービスの向上を図るため、ミュージアムショップにおけるオリジナルグッズの開発、販売方法等を検討する。

エ 国立国際美術館では、ミュージアムショップと連携・協力してホームページに掲載されている商品情報等を充実させる。

オ 国立新美術館では、ミュージアムショップと連携し、オリジナルグッズの開発やショップ内のギャラリーの展示に対する企画協力を行い、美術館の魅力の創出に努める。また、レストランと協力し、展覧会に関連した特別メニューの提供など、利用者へのサービス向上を図る。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1) 作品の収集

- ①-1 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に努める。

あわせて、購入した美術作品に関する情報をホームページで引き続き公開する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

近代日本美術の体系的コレクションの構築を引き続き図りつつ、近代日本美術に影響を与えた海外作家の作品、及び日本と海外の同時代美術作品の収集を積極的に行う。本年度は特に次の点について留意する。

ア 1970年代以降の日本と海外の作品の収集

イ 日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集

ウ 1900～1940年代の日本画作品の収集

〈工芸館〉

次の点について留意しつつ、近代日本における工芸の体系的コレクションの充実を図る。

ア 日本工芸の近代化を示す作品の補充

イ 戦後から現代に至る伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集

ウ 近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集

(京都国立近代美術館)

ア 前年度に引き続き、我が国の近・現代において生み出された美術、工芸、建築、デザイン、写真等で、主として美術・工芸作品について、近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品、我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作を積極的に収集するとともに、優れた写真作品の収集も継続して行う。また、海外作品の充実を図るため、前衛的傾向を示す海外の美術作品についても、継続して収集を目指す。

イ 京都に設置されている立地条件から、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した所蔵作品の充実を継続して図る。

(国立西洋美術館)

ア 15～20 世紀ヨーロッパ絵画等の収集に努める。

イ ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心にヨーロッパ版画のコレクションを充実させる。

ウ 国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集を継続する。

(国立国際美術館)

ア 1945 年以降の日本の現代美術作品の系統的収集を継続する。

イ 国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集を継続する。

①・2 寄贈・寄託作品の受入れを推進するとともに、所蔵作品展等における積極的な活用を図る。

①・3 美術作品購入費（特殊業務経費）については、緊急を要する美術作品や通常の予算では購入できない金額の美術作品を優先的に購入することとする。購入作品の選定に当たっては法人全体で協議する。

なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や連絡調整を行う。

(2) 所蔵作品の保管・管理

保管施設の狭隘・老朽化への対応に取り組む。

各館における対策はもとより、収蔵庫等保管施設の狭隘・老朽化の抜本的な改善を図るため、各館で横断的に活用が可能な形態や方法について、既存の施設との連携を図りながら、地元自治体や関係機関の協力を得て検討を進める。

また、新たな保管施設が整備されるまでの間、特に狭隘化が進んでいる館の所蔵作品の一部を外部の民間保管施設に保管することで、美術作品の適正な保管と保全を図る。

（３）所蔵作品等の修理、修復

所蔵作品等の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行う。

ア 東京国立近代美術館本館では、引き続き作品貸与時の対応も含め、保存科学と修復に関する外部の専門家との定常的な連携を進める。特に、日本画の屏風等大型作品の修復、作品の安全性・鑑賞性を高める額装の改変などを中心的に進める。

イ 工芸館では、展示や貸出等の活用頻度の高い工芸作品のうち染織と漆工、金工作品の現状保存修復を行う。作品収蔵庫の燻蒸・クリーニング及び展示会場のクリーニングを継続して行う。

ウ 京都国立近代美術館では、寄贈により収集したものの、作品保護の観点から展示できない美術作品を中心に保存修復処置を行う。経年劣化による影響の大きい日本画を中心に進め、当館での展示のみならず、作品貸与の依頼にも応えられるようにする。

エ 国立西洋美術館では、展示や貸出の機会の多い近代絵画作品、近く展示を予定している版画・素描作品等の保存修復処置を行う。

オ 国立国際美術館では、アンゼラム・キーファー《星空》等、緊急に処置を要する貴重な作品を中心に保存修復処置を行う。

カ 国立新美術館では、保存状態が悪く、そのままでは利用が難しい寄贈資料について、デジタル画像作成を含めた保存修復措置を行う。

（４）所蔵作品の貸与

所蔵作品について、その保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

ア 東京国立近代美術館本館では、法人内はもとより国内外での積極的な活用を図る。前年度に引き続き、増大する貸与業務の安全化・効率化のため、修理・修復作業との連動を図るとともに、事前の採寸・箱作成、輸送指示等を一層徹底する。

イ 工芸館では、所蔵作品による巡回展（岡山市立オリエント美術館、島根県立美術館）や文化庁主催「日本のわざと美」等への貸与を計画的に実施する。

ウ 京都国立近代美術館では、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設からの借用依頼に積極的に対応する。

エ 国立西洋美術館では、「フレデリック・バジール展」（フランス、オルセー美術館他）、「森羅万象を刻む」（町田市立国際版画美術館）、「松方コレクション展」（神戸市立博物館）等に貸与を行う。

オ 国立国際美術館では、作品の状態や同館での活用計画を踏まえ、借用依頼に積極的に対応する。「共時の出現：日本の美術1955-1975（仮称）」（リオ・デ・ジャネイロ近代美術館）等に貸与を行う。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 国内外の美術館等との連携・協力等

① 国内外の研究者を招へいし、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

ア 東京国立近代美術館本館では、「安田靫彦展」、「声ノマ 全身詩人、吉増剛造展」、「トーマス・ルフ展（仮称）」、「山田正亮展（仮称）」、「樂 歴代展（仮称）」において、国内外から研究者を招くなどして講演会を開催する。

イ 京都国立近代美術館では、研究者を招へいし、各展覧会の会期中に講演会を開催する。

ウ 国立西洋美術館では、「日伊国交樹立150周年記念 カラヴァッジョ展」、「聖なるもの、俗なるもの メッケネムとドイツ初期銅版画」及び「クラナハ展—500年後の誘惑」にあわせ、講演会を各展覧会数回ずつ開催する。

エ 国立国際美術館では、「森村泰昌：自画像の美術史—「私」と「わたし」が出会うとき」で森村氏による連続講座「新・美術寺子屋／自画像の話」を6回程度実施する他、各展覧会の会期中に講演会を実施する。また、現代社会と現代美術の関係について優れた分析を行っている美術理論家であるボリス・グロイス氏の講演会を開催する。さらに、ドイツやアメリカ、フランス他、異なる国や状況で活動しているキュレーターが集まり、現代美術に関するキュレーターミーティングを現代美術センターCCA北九州や国際交流基金と連携して開催するとともに、保存修復の少ないタイム・ベースド・メディア作品の保存方法に関する取り組みについての研究会を、大学や美術館と連携して開催する。

オ 国立新美術館では、企画展や美術及び教育普及に関する講演会及びセミナー等を開催する。また、企画展に関わるシンポジウムを開催する。

② 展覧会等の紹介や企画につき海外の美術館との連携・協力を図る。

ア 京都国立近代美術館では、「日本美術の熱き時代（仮称）」の開催において、国際交流基金及びベルギーのパレ・デ・ボザール（アートセンター）と連携し、秋に展覧会を巡回させる。

イ 国立国際美術館では、「森村泰昌：自画像の美術史—「私」と「わたし」が出会うとき」の規模を若干変更した上で、フォンダチオーネ・フォトグラフィア・モデナ、イタリア（2016年9月中旬～12月）、プーシキン美術館、ロシア（2017年1月～4月）に巡回する。

ウ 国立新美術館では、オルセー美術館・オランジュリー美術館と連携して「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展」を、アカデミア美術館と連携して「日伊国交樹立150周年特別展 アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち」を、ガラ＝サルバドール・ダリ財団、サルバドール・ダリ美術館、国立ソフィア王妃芸術センターと連携して「ダリ展」を開催するとともに、ナショナルギャラリー・バンコクと連携して「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」の海外巡回展を開催する。

- ③ 全国の美術館等の運営に対する援助、助言を適時行うとともに、地方巡回展の開催、企画展の共同主催やそれに伴う共同研究等を通じて、関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に取り組む。

（２）ナショナルセンターとしての人材育成

- ① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う。

ア 小・中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材の普及を図る。

イ 各地域の学校と美術館の関係の活性化を図るとともに、子どもたちに対する鑑賞教育の充実に資するため、各地域の鑑賞教育や教育普及事業に携わる小・中・高等学校の教員と学芸員等が一堂に会し、グループ討議等を行う「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を、国立美術館の研究員の研究成果と協働により実施する。

あわせて、法人ホームページでの実施概要及び実施報告の掲載を通じ幅広い層への広報に努める。

期間：平成28年8月1日（月）～2日（火）

会場：東京国立近代美術館、国立新美術館

募集人員：約100名

ウ イの研修について教員免許更新講習として実施する。

- ②-1 公立美術館の学芸担当職員を対象としたキュレーター研修を実施し、その専門的知識及び技術の普及向上を図る。

研修希望者の募集に際しては、アンケート調査の結果を踏まえ、前年度と同様に研修を受け入れる国立美術館各館の展覧会概要及び受入れ可能な研修分野の情報を提示し9月に公募を開始する。

- ②-2 美術館活動を担う人材の育成に資するようインターンシップ等の事業を次のとおり実施する。

ア 各館においてインターンシップ制度を実施する。

イ フィルムセンターにおいて、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。

ウ 国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して美術館運営に関する教育を行う。

エ 国立新美術館において、近隣の政策研究大学院大学との連携の一環として、学生を対象とした展覧会等に関するガイダンスを実施し、良質な芸術作品に触れる鑑賞機会を積極的に提供する。

（３）国内外の映画関係団体等との連携等

フィルムセンターでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として、国内外の映画関係団体等と連携しながら次の取組を実施する。

- ① 映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルムを保存・復元するとともに、アニメーション映画、デジタル復元による成果物、上映事業や国際交流事業に必要な上映用素材、企業の管理下に置かれない自主製作映画や実験映画、これまで受入れのなかった会社等からの寄贈映画フィルム及びこれらのデジタル複製物の収集を行う。また、映画資料についても、日本映画に関わるものを中心に、映画史の調査研究に資する資料の収集を行う。本年度は特に次の点について留意する。

ア ボーンデジタル作品のうち、希少性や保存上緊急度の高い作品、上映事業や国際交流事業に必要な作品の収集を行う。

イ 前年度に引き続き、映画の撮影及び現像の際に利用された作業データの保存に向けて、適切な素材となるフィルムの収集を行う。

ウ 前年度に引き続き、初期カラーの試みを反映した作品の収集と復元を行う。

エ 前年度に引き続き、70mmフィルム等大型映画の適切な保存・復元に向けての作業を継続する。

- ② 重文指定作品等歴史資料として貴重な作品や、初期国産カラーによる『ジャズ娘誕生』（1957年）等稀少性の高い作品について、適切な復元を図る。可燃性フィルム及びビネガーシンドローム等劣化の著しいフィルムの保存・復元について、症状に応じた柔軟な処置を施す。大型映画、小型映画を含む実験映画、染調色やステンシルカラー等最初期の色再現による映画については、素材の検査体制の充実とともに、デジタル技術の応用を含めた保存・復元の検討を継続する。また、映画ポスターやシナリオ、プレス資料、図書、雑誌といった映画資料についても保存修復措置を行う。

- ③ 保存・復元の成果や、日本映画を中心にこれまで充実させてきたコレクションの紹介を目的に、地方及び海外の同種機関や映画祭等に対し、共催及び貸与を通して上映会・展覧会の開催に協力する。また、所蔵作品及び関連情報へのアクセスの増大と多様化への効率的な対応を念頭に、引き続きDVDの作成・販売、配信等、デジタル・アクセスに対する検討を行う。

- ④ ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）を記念して講演会等を開催する。

- ⑤ 海外において以下の共催上映を実施する。

ア 「日本の初期カラー映画特集」パート2

期間：平成28年6月25日（土）～7月2日（土）

会場：フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ
（イタリア・ボローニャ）

共催：フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ

イ 「日本の無声短篇映画上映」

期間：平成28年10月1日（土）～10月8日（土）

会場：ジョゼッペ・ヴェルディ劇場（イタリア・ポルデノーネ）

共催：チネテカ・デル・フリウリ

ウ 「日本の無声映画特集」

期間：平成28年度内

会場：スウェーデン映画協会シネマテーク（スウェーデン・ストックホルム）

共催：スウェーデン映画協会

（以後、他の北欧諸国での巡回について検討中）

エ 内田吐夢監督特集

期間：平成28年度内

会場：ニューヨーク近代美術館（アメリカ・ニューヨーク）

共催：ニューヨーク近代美術館

- ⑥ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）加盟機関及び国内映像関連団体並びに研究機関等と情報交換を図りながら、映画フィルムの保存・修復活動等に携わる機関や団体への協力を行う。
- ⑦ 国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力する。
- ⑧ 「東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業」の一環として、国立美術館キャンパスメンバーズ（東京国立近代美術館利用校）とともに、フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用した講義等を実施する。
- ⑨ 文化庁が実施する映画関連の事業に、施設の提供等で協力する。
- ⑩ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」事業に協力する。
- ⑪ 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づき、資源及び情報等を活用し、文化事業を連携・協力して行う。
- ⑫ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会議に研究員等が出席し、シンポジウム等で発表を行う。
- ⑬ 全国各地で保存されている映画関連資料に関する情報を収集し、映画資料を所蔵する機関との連携を図る。
- ⑭ より機動的かつ柔軟な運営を行うため、国立美術館内において他館と同列の一施設として東京国立近代美術館から独立した組織を設置するなど、その在り方について検討を進める。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の取組

業務運営の一層の効率化を進めるため、次のような措置を講ずる。

(1) 省エネルギー

観覧環境を阻害しない範囲において、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく中長期計画に沿って、エネルギー使用量の削減に努める。

(2) 共同調達等の推進

共同調達等を推進し、業務の効率化に努める。

2 組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため、組織・体制の強化に努める。

3 契約の点検・見直し

「調達合理化計画」の策定及び国立美術館契約監視委員会の開催(1回程度)により、随意契約及び一般競争入札について点検、見直しを行う。その結果も踏まえ、一般競争入札及び企画競争・公募による競争性のある契約方式及び契約の包括化を推進する。

4 共同調達等の取組の推進

周辺の機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進する。

ア コピー用紙

イ トイレットペーパー

ウ 廃棄物処理

5 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

また、平成28年度においてもこれまでの人件費改革の取組の効果が活きるよう、より一層の組織の見直し等に努める。

6 情報通信技術を活用した業務の効率化

国立美術館5館の情報システムネットワークの一元化を基盤として、引き続きTV会議システム、グループウェア等の活用による効率化を進める。VPN バックアップ回線を増強するなどバックアップ・インフラの増強に努める。

7 予算執行の効率化

共同調達や競争入札を推進し、予算効率的な執行に努める。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 自己収入の確保

民間による施設利用等の施設貸出収入や新たな会員制度による会費収入の増加などに取り組み、自己収入の増加を目指す。また、寄附金等外部資金の獲得促進に取り組む。

2 保有資産の有効利用・処分

保有する美術館施設等の資産については、引き続き外部貸出による講堂等の利用率の向上及び閉館時等におけるエントランスロビー等の活用を図るとともに、保有の目的・必要性について不断の見直しを行い、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

3 予算（年度計画の予算）

別紙のとおり。

4 収支計画

別紙のとおり。

5 資金計画

別紙のとおり。

Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 内部統制・ガバナンスの強化

(1) 引き続き理事長裁量経費を計上し、理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備する。外部の有識者による運営委員会に対し国立美術館の管理運営に関して諮問を行い、審議結果を運営管理に反映させるなど内部統制の充実を図る。

(2) 国立美術館が安定してその情報コンテンツを国民に提供できるように情報管理の安全性の向上を図るとともに、コンピュータウィルスに関連する情報を職員に周知するなど、情報セキュリティ対策の向上と改善を行う。

また、いわゆる情報セキュリティポリシーに当たる「国立美術館情報資産安全対策基本方針」、「国立美術館情報資産安全管理規則」を踏まえ、安全管理のための実施細則の策定を進める。

(3) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況等については内部監査、監事監査等において定期的に検証し、必要に応じて見直しを行う。また、業務運営全般については、外部評価委員会及び運営委員会を1回以上開催し、指摘内容について館長等会議等において検討し、組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、「国立美術館外部評価報告書」については法人ホームページで公表する。

2 施設・設備に関する計画

(1) 施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

平成 28 年度予算措置に基づき、以下の施設・設備の整備等を進める。

(平成 28 年度予算)

- ア 工芸館外壁・屋根廻り塗装工事
- イ フィルムセンター電気設備改修工事
- ウ 京都国立近代美術館ハロン消火器設備更新工事
- エ 京都国立近代美術館 1 階講堂改修工事
- オ 国立西洋美術館建築設備（自動扉・シャッター・5t クレーン）改修工事
- カ 国立西洋美術館昇降機改修工事
- キ 国立国際美術館電話交換機設備更新工事
- ク 国立国際美術館自動火災報知装置改修工事
- ケ 国立新美術館空調機等整備等工事
- コ 国立新美術館非常用蓄電池設備更新工事
- サ 国立新美術館西側ガラスカーテンウォールへの開閉式遮光カーテン設置工事

(2) 国立新美術館の用地（未購入の土地）について、施設・設備に関する計画に基づき、予算措置に応じて購入を進める。

3 人事に関する計画

(1) 方針

① 職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。

- ア 新規採用者研修
- イ 接遇研修
- ウ メンタルヘルスケアに関連する研修

② 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。特に研究職職員への研修機会の増大に努める。

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。また、引き続き平成 23 年度に導入した任期付研究員及びアソシエイトフェロー制度のより一層の活用を図る。

4 積立金の使途

前中期目標期間の積立金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、当期に繰り越された経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

5 その他

「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成 25 年 12 月 24 日閣議決定）に基づき、業務運営に関して様々な工夫・努力を行う。

3 予算(年度計画の予算)

平成28年度予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	7,501
展示事業等収入	1,178
寄附金収入	650
施設整備費補助金	3,511
計	12,840
支 出	
運営事業費	8,679
管理部門経費	1,112
うち人件費	405
うち一般管理費	707
事業部門経費	7,567
うち人件費	1,142
うち美術振興事業費	2,381
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	3,629
うちナショナルセンター事業費	415
寄附金事業費	650
施設整備費	3,511
計	12,840

4 収支計画

平成28年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	5,585
経常経費	5,585
管理部門経費	1,087
うち人件費	405
うち一般管理費	682
事業部門経費	3,682
うち人件費	1,142
うち美術振興事業費	2,290
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	109
うちナショナルセンター事業費	141
寄附金事業費	650
減価償却費	166
収益の部	5,585
運営費交付金収益	3,591
展示事業等の収入	1,178
寄附金収益	650
資産見返運営費交付金戻入	152
資産見返寄附金戻入	3
資産見返物品受贈額戻入	11

5 資金計画

平成28年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	12,840
業務活動による支出	9,213
投資活動による支出	3,627
資金収入	12,840
業務活動による収入	9,329
運営費交付金による収入	7,501
展示事業等による収入	1,178
寄附金収入	650
投資活動による収入	3,511
施設整備費補助金による収入	3,511

別表1 平成28年度 所蔵作品展・企画展 計画

※所蔵作品展の入館者については、各館において、前中期目標期間における年間平均入館者数以上を目標とする。

目標入館者数 企画展（企画上映） 全館合計 2,418,700 人

（東京国立近代美術館）

〈本館〉

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
所蔵 作品展	MOMATコレクション （「春らんまんの日本画まつり」，「奈良美智がえらぶMOMATコレクション（仮称）」他特集およびコレクションによる小企画含む）	—	4回展示替え	290	—	本館所蔵 作品ギャ ラリー
企画展	①安田靫彦展 ※1	朝日新聞社	3/23（水）～ 5/15（日）	41	82,000	本館企画 展ギャラ リー
	②声ノマ 全身詩人、吉増剛造展	—	6/7（火）～ 8/7（日）	54	19,000	〃
	③トーマス・ルフ展（仮称）	読売新聞社	8/30（火）～ 11/13（日）	66	78,000	〃
	④瑛九1935-1937 闇のなかで「レアル」をさがす	—	11/22（火）～ 2/12（日）	68	13,000	本館ギャ ラリー4
	⑤山田正亮展（仮称）	京都国立近代美術館	12/6（火）～ 2/12（日）	56	19,000	本館企画 展ギャラ リー
	⑥樂 歴代展（仮称） ※2	NHKプロモーション	3/14（火）～ 5/21（日）	17	22,000	〃
	企画展計			302	233,000	

※1 通算の開催日数は50日間、目標入場者数は99,000人

※2 通算の開催日数は63日間、目標入場者数は82,000人

〈工芸館〉

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
所蔵 作品展	こども＋おとな工芸館（仮称） 近代工芸と茶の湯Ⅱ（仮称） 工芸に見る動物モチーフ（仮称）	—	3回展示替え	128	—	工芸館
企画展	①芹沢銈介のいろは一金子量重コレクション ※1	—	3/5（土）～ 5/8（日）	35	6,000	〃
	②工芸の時代（仮称）	—	9/17（土）～ 12/4（日）	68	10,000	〃
	③マルセル・ブロイヤー展（仮称） ※2	—	3/3（金）～ 5/7（日）	26	8,000	本館ギャ ラリー4
	企画展計			129	24,000	

※1 通算の開催日数は59日間、目標入館者数は11,000人。

※2 通算の開催日数は60日間、目標入館者数は18,000人。

〈本館〉・〈工芸館〉 合計 企画展 257,000 人

〈フィルムセンター〉

	上映会・展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
上映会	①生誕100年 木下忠司の映画音楽	—	4/5（火） ～ 6/12（日）	60	14,500	大ホール
	②EUフィルムデーズ2016	駐日欧州連合代表 部およびEU加盟国 大使館・文化機関	6/18（土） ～ 7/10（日）	20	9,500	大ホール
	③生誕100年 映画監督 加藤泰	—	7/12（火） ～ 9/4（日）	48	14,500	大ホール
	④第38回PFF	PFFパートナーズ, 公益財団法人ユニ ジャパン	9/10（土） ～ 9/23（金）	12	4,000	大ホール （一部小 ホール）
	⑤シネマの冒険 闇と音楽 2016 スウェーデン映画協会所蔵無声映 画選集（仮称）	スウェーデン映画 協会	10/11（火） ～ 10/16（日）	6	1,500	大ホール
	⑥アメリカ映画特集（仮称）	東京国際映画祭, モーション・ピク チャー・アソシ エーション （MPA）、株式会社 日本国際映画著作 権協会[予定]	10/25（火） ～ 11/6(日) [予定]	12	4,300	大ホール
	⑦NFC所蔵外国映画選集（仮称）	—	11/10（木） ～ 11/23（水）	12	3,000	大ホール
	⑧創立70周年 旧東ドイツDEFA映画 回顧特集（仮称）	DEFA財団, ドイ ツ・キネマテーク	11/29（火） ～ 12/25（日）	24	6,500	大ホール
	⑨自選シリーズ 現代日本の映画監督5（仮称）	—	1/10（火） ～ 1/22（日）	12	3,500	大ホール
	⑩京橋映画小劇場No.33 アンコール特集 2015年度上映作品より	—	5/6（金） ～ 5/22（日）	9	1,500	小ホール
	⑪京橋映画小劇場No.34 ドキュメンタリー作家 羽田澄子	—	8/9（火） ～ 8/28（日）	18	1,900	小ホール
上映会計				233	64,700	
展覧会	①写真展 映画館 映写技師／写真 家 中馬聰の仕事	—	4/12（火） ～ 7/10（日）	74	4,000	
	②角川映画の40年（仮称）	—	7/26（火） ～ 10/30（日）	80	4,000	
	③戦後ドイツの映画ポスター（仮 称）	京都国立近代美術 館	11/15（火） ～ 1/29（日）	59	4,000	
	展覧会計			213	12,000	
上映会 ・ 展覧会 合計					76,700	

(京都国立近代美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展 「近代の美術・工芸・写真」	—	5回展示替え	301	—
企画展	①オーダーメイド： それぞれの展覧会	—	4/2（土）～ 5/22（日）	45	15,000
	②キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより ※1	東京国立近代美術 館フィルムセン ター	6/1（水）～ 7/24（日）	46	(30,000)
	③ポール・スミス展 HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH	読売新聞社、関西 テレビ放送、ぴあ	6/4（土）～ 7/18（月）	39	42,000
	④日本美術の熱き時代（仮称）	—	7/29（金）～ 9/11（日）	39	10,000
	⑤メアリー・カサット展	NHK, NHK京都放送 局, NHKプラネット 近畿, 読売新聞社	9/27（火）～ 12/4（日）	60	40,000
	⑥楽 歴代展（仮称）	NHKプロモーション	12/17（土）～ 2/12（日）	43	50,000
	⑦山田正亮展（仮称）※2	東京国立近代美術 館	3/1（水）～ 4/9（日）	27	7,000
	企画展計			253	164,000

※1 コレクション・ギャラリーで開催する企画展のため、合計には計上しない。

※2 通算の開催日数は35日間、目標入館者数は10,000人。

(国立西洋美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	西洋美術館コレクション	—	3回展示替え	300	—
企画展	①日伊国交樹立150周年記念 カラヴァッジョ展 ※1	NHK, NHKプロモー ション, 読売新聞 社	3/1（火）～ 6/12（日）	64	350,000
	②聖なるもの、俗なるもの メッケネムとドイツ初期銅版画	東京新聞	7/9（土）～ 9/19（月）	64	35,000
	③クラナハ展—500年後の誘惑	TBSテレビ, 朝日新 聞社	10/15（土）～ 1/15（日）	76	197,000
	④シャセリオー展 ロマン主義か ら象徴主義へ（仮称） ※2	TBSテレビ	2/28（火）～ 5/28（日）	29	38,000
	企画展計			233	620,000

※1 通算の開催日数は92日間、目標入館者数は500,000人。

※2 通算の開催日数は79日間、目標入館者数は125,000人。

(国立国際美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展	—	2回展示替え	147	—
企画展	①森村泰昌：自画像の美術史— 「私」と「わたし」が会うとき	朝日新聞社	4/5（火） ～ 6/19（日）	67	51,000
	②田中一光ポスター展	—	4/5（火） ～ 6/19（日）	67	14,000
	③特別展 始皇帝と大兵馬俑	陝西省文物局，陝 西省文物交流中 心，NHK大阪放送 局，NHKプラネット 近畿，朝日新聞社	7/5（火） ～ 10/2（日）	80	124,000
	④日伊国交樹立150周年特別展 アカデミア美術館所蔵 ヴェネ ツィア・ルネサンスの巨匠たち	TBS, MBS	10/22（土） ～ 1/15（日）	67	48,000
	⑤THE PLAY since 1967 まだ見 ぬ流れの彼方へ	—	10/22（土） ～ 1/15（日）	67	14,000
	⑥クラナハ展—500年後の誘惑※ 1	TBS	1/28（土） 4/16（日）	54	72,000
	⑦アレシンスキー展（仮称）※2	—	1/28（土） 4/9（日）	54	19,000
	企画展計			456	342,000

※1 通算の開催日数は68日間，目標入館者数は 91,000人。

※2 通算の開催日数は62日間，目標入館者数は 22,000人。

(国立新美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
企画展	①はじまり、美の饗宴展 すばらしき大原美術館コレクション ※1	大原美術館，NHKプ ロモーション	1/20（水） ～ 4/4（月）	4	4,000
	②MIYAKE ISSEY展：三宅一生の 仕事 ※2	—	3/16（水） ～ 6/13（月）	64	62,000
	③オルセー美術館・オランジュ リー美術館所蔵 ルノワール展	オルセー美術館， オランジュリー美 術館，日本経済新 聞社	4/27（水） ～ 8/22（月）	104	360,000
	④日伊国交樹立150周年特別展 アカデミア美術館所蔵 ヴェネ ツィア・ルネサンスの巨匠たち	TBS，朝日新聞社	7/13（水） ～ 10/10（月）	79	180,000
	⑤ダリ展	ガラニサルバドル ・ダリ財団，サル バドル・ダリ美 術館，国立ソ フィア王妃芸術セ ンター，読売新聞	9/14（水） ～ 12/12（月）	78	250,000
	⑥DOMANI・明日展	文化庁	12/10（土） ～ 2/5（日）	—	13,000
	⑦草間彌生展（仮称）※3	朝日新聞社	2/22（水） ～ 5/22（月）	33	47,000
	⑧ミュシャ展 ※4	NHK，NHKプロモ ーション，朝日新聞 社	3/8（水） ～ 6/5（月）	21	55,000
	企画展計			383	971,000

※1 通算の開催日数は66日間，目標入館者数は72,000人。

※2 通算の開催日数は78日間，目標入館者数は76,000人。

※3 通算の開催日数は78日間，目標入館者数は112,000人。

※4 通算の開催日数は78日間，目標入館者数は204,000人。

別表2 各館の平成28年度調査研究

※調査研究は以下の目的に沿って実施する。

ア 美術作品の収集・展示・保管に関する調査研究

イ 教育普及活動のための調査研究

ウ 情報の収集・提供のための調査研究

エ その他の美術館活動のための調査研究

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
安田靫彦に関する研究	—	ア
吉増剛造に関する研究	—	ア
トーマス・ルフに関する研究	金沢21世紀美術館	ア
山田正亮に関する研究	京都国立近代美術館	ア
瑛九に関する研究	—	ア
楽歴代に関する研究	京都国立近代美術館	ア
「MOMATコレクション」展に関する研究	—	ア
「MOMATコレクション 特集：春らんまんの日本画まつり」に関する研究	—	ア
「コレクションによる小企画 奈良美智がえらぶMOMATコレクション（仮称）」に関する研究	—	ア
屋外彫刻の保存・修復に関する研究	多田美波研究所	ア
金属彫刻展示の安全性向上に関する研究	栃木県立美術館	ア
デジタルカメラによる作品撮影および画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較研究	西川茂（写真家）	ア
「MOMATコレクション」における多様な情報提供	—	ウ
国立美術館の情報資源と国立情報学研究所によるWebcatPlus、文化庁文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を、「想—IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開	—	ウ
アート・ディスカバリー・グループ目録（Art Discovery Group Catalogue）への参加の可能性を検討する	—	ウ
作品の来歴、展覧会歴、文献歴など歴史的情報をもつ所蔵作品データの拡充を図り、併せて国立美術館所蔵作品総合目録での公開を目指す	—	ウ
「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業 2016」（略称：JALプロジェクト）	—	ウ
児童生徒を対象とする所蔵作品の鑑賞教育の推進	東京都図画工作研究会，東京都中学校美術研究会	イ

〈工芸館〉

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
芹沢銈介	—	ア，エ
現代の工芸—伝統工芸とオブジェ	—	ア
楽家歴代と十五代吉左衛門	京都国立近代美術館	ア
近代工芸と茶の湯の器	—	ア

近代工芸の歴史と展開	岡山市立オリエント美術館，島根県立美術館	ア
「20世紀前半の日本と中国・台湾・韓国とのデザイン/工芸の交流」	科学研究費補助金，3年目	ウ
現代「手芸」文化に関する研究	国立民族学博物館	ア
マルセル・ブロイヤーとモダン・デザインに関する調査研究	ミサワホーム総合研究所	ア
児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	東京都図画工作研究会	イ
児童・生徒を対象とする工芸素材と技法の体験及び鑑賞教育の推進	—	イ
近代工芸における動物モチーフ	—	ア

〈フィルムセンター〉

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) 会員，その他同種機関，現像所等からの情報に基づく，未発見の日本映画フィルムの所在調査	FIAF会員，国内外の同種機関，現像所	ア
文化庁との共同事業「近代歴史資料調査」，文化庁美術館・歴史博物館重点分野推進事業の結果に基づき，新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査	記録映画保存センター，神戸映画保存ネットワーク，早稲田大学演劇博物館	ア
可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録，アナログ及びデジタル技術を活用した復元，及び映写	FIAF会員，国内外の同種機関，映画研究教育機関，美術館・博物館，映像機器メーカー，現像所等	ア
映画におけるデジタル保存と活用	FIAF会員，国内外の同種機関，映画研究教育機関，IT関連研究教育機関，映画製作会社，映画関連団体，放送局，映像機器メーカー，現像所，IT関連会社等	ア
不明となっている所蔵作品の権利帰属等メタデータ	映画製作会社等諸団体	ア
映画の撮影及び現像時における技術データ	映画製作会社，関連職能組合，現像所等	ア
映画資料を整理するとともに，その画像をデジタル化し，活用することを目的とする事業	—	ウ
木下忠司の映画音楽	—	ア
ヨーロッパ諸国の映画	駐日欧州連合代表部およびEU加盟国大使館・文化機関	ア
近年逝去した映画人	—	ア
日本の自主映画	PFFパートナーズ，公益財団法人ユニジャパン	ア
アメリカ映画の復元作ならびに70mm映画	東京国際映画祭，モーション・ピクチャー・アソシエーション (MPA)，株式会社日本国際映画著作権協会	ア
スウェーデン映画	スウェーデン映画協会	ア
映画監督加藤泰	—	ア
現代日本の映画監督	—	ア
東ドイツ映画	DEFA財団，ドイツ・キネマテーク	ア
ドキュメンタリー作家 羽田澄子	—	ア

日本の映画館文化	—	ア
角川映画	—	ア
東西ドイツの映画ポスター	京都国立近代美術館，DEFA財団（ベルリン）	ア

（京都国立近代美術館）

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
コレクションの再配置および鑑賞プログラムに関する調査研究	—	ア，イ
キューバの映画ポスター	東京国立近代美術館フィルムセンター，株式会社竹尾，多摩美術大学美術館	ア
ポール・スミス，クリエーション・プロセスとその分析・普及	デザイン・ミュージアム，ブリティッシュ・カウンシル	ア，イ，ウ
日本美術の熱き時代（仮称）	パレ・デ・ボザール（ベルギー）	ア，ウ
メアリー・カサットおよび印象派の女性画家に関する調査研究	横浜美術館	ア
楽歴代に関する研究	東京国立近代美術館	ア
山田正亮に関する研究	東京国立近代美術館	ア
七彩に集った作家たち	株式会社七彩，京都服飾文化研究財団	ア，ウ
東西ドイツの映画ポスター	東京国立近代美術館フィルムセンター，DEFA財団（ベルリン）	ア
「近代美術工芸における『図案』と『図案家』をめぐる基礎的研究」	科学研究費補助金，4年目	ア，ウ

（国立西洋美術館）

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
日伊国交樹立150周年記念 カラヴァッジョ展	—	ア
聖なるもの，俗なるもの メッケネムとドイツ初期銅版画	ミュンヘン国立素描版画館	ア
クラナハ展—500年後の誘惑	ウィーン美術史美術館	ア
シャセリオー展 ロマン主義から象徴主義へ（仮称）	ルーヴル美術館	ア
スケーエン：デンマークの芸術家村	スケーエン美術館	ア
旧松方コレクションを含む松方コレクション全体	—	ア
中世末期から20 世紀初頭の西洋美術	—	ア
所蔵版画作品	—	ア
美術館教育	—	イ
ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	—	ア
「17 世紀オランダ美術の東洋表象研究」	科学研究費補助金，5年目	ア，エ
「10年後の被災都市におけるミュージアムの教育プログラム—ニューオリンズを事例に」	科学研究費補助金，2年目	ア，エ

(国立国際美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
所蔵作品	—	ア
現代美術の動向	—	ア
森村泰昌	—	ア
田中一光	—	ア
THE PLAY	—	ア
アレシンスキー	—	ア
ライアン・ガンダー	—	ア
福岡道雄	—	ア
安齋重男	—	ア
ボルタンスキー	国立新美術館	ア
美術館教育	—	イ
現代美術の保存修復	京都市立芸術大学	ア
国内外のキュレトリアルリサーチ	現代美術センターCCA北九州、国際交流基金	ウ、エ

(国立新美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
日本の現代美術の動向	—	ア
海外の現代美術の動向	—	ア
ルノワール研究	オルセー美術館，オランジュリー美術館	ア
ヴェネツィア絵画の研究	アカデミア美術館	ア
ダリ研究	ガラ＝サルバドール・ダリ財団，サルバドール・ダリ美術館，国立ソフィア王妃芸術センター	ア
草間彌生研究	—	ア
ミュシャ研究	プラハ市立美術館	ア
東南アジアの現代美術の動向	森美術館，国際交流基金	ア
ドイツ表現主義の研究	—	ア
日本のマンガ，アニメ，ゲーム	—	ア
日本のファッションとデザイン	—	ア
美術館の教育普及事業（ワークショップ，鑑賞ガイド等）	—	イ
日本の近・現代美術資料	—	ウ
戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開	—	ウ
美術情報の収集・提供システム	—	ウ
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	—	ウ